

秘伝一の巻

忍者市の 魅力を伝授

伊賀の里の魅力を伝授する秘伝一の巻

古くから忍びの里として
独自の文化を築いてきた伊賀の里。
そこに息づく技術と精神は代々秘伝として、
変わらずに受け継がれてきました。
一の巻ではその魅力を伝授します。





◆ 伊賀流

- 一、伊賀忍者の術 ————— 7ページ
- 二、日本遺産の術 ————— 9ページ
- 三、魅力発信の術 ————— 11ページ
- 四、歴史の術 ————— 13ページ
- 五、伝統文化の術 ————— 15ページ
- 六、IGAMONOの術 ————— 17ページ

伊賀忍者の歴史と精神



忍術書『萬川集海』

伊賀・甲賀流忍術を集大成した忍術書。

江戸時代前期、伊賀の上忍の一人藤林長門守(ながとのかみ)の子孫、藤林保武(やすたけ)により編纂(へんさん)されました。

忍びの隠れ里伊賀

今や日本だけでなく世界中で親しまれている「忍者」。忍者の主な仕事は身を隠しながら情報収集を行うことでした。そうした忍者たちの本拠地の一つが伊賀です。古くから伊賀は、都であった奈良や京都から近く、3つの街道が通っていたため全国各地の情報が早く入る重要な地でした。さらに山に囲まれた地形であり、身を隠すには絶好の場所でもありました。こうした点に目をつけた忍者はこの地を隠れ里として選び、本拠地としました。

伊賀を拠点に活躍した忍者は「伊賀者」「伊賀衆」と呼ばれ、科学などの最新知識に通じていました。多彩な道具を使いこなし、人間の心理や自然を利用した忍術を駆使しました。また、「正心^{せいしん}」をはじめ独自の精神文化を有しており、心身ともに優れた者として全国で活躍しました。こうした忍者の歴史と精神は、現在の伊賀市に暮らす人々の中にも変わらずに受け継がれています。



まさびし

建物の出入口にあらかじめまいておき、追手を足止めするための道具です。



手裏剣

敵に投げつけ、戦力を減退させるための道具。星型のものが忍術書に載っています。

代表的な忍術

忍者の使命は、生きて情報を持ち帰ること。忍術はそのために編み出された技で、人の心理や錯覚を利用したものから呪術的なものまで様々な術があります。

オン・アニチ・マリシエイ・ソワカ



摩利支天隠業の術

上の図の言葉を唱えると姿が消えるという秘術。

飯綱大権現



飯綱の術

鹿の皮と亀の甲羅を飯綱大権現という神に供え、加護を求めると空を飛べるという呪術に近い術。



九字護身法

魔除けの法で「臨兵衛皆陣列在前(りんぴょうとうしゃかいじんれつざいぜん)」と唱えると邪気を退散させ煩惱を打ち砕くとされています。

くない

くないを壁に刺して、そこに足をかけて登りました。

伊賀忍者

伊賀を拠点に活躍した忍者。雇い主が戦に有利になるような情報を収集するために、様々な忍術を用いて敵地に忍び込みました。

水蜘蛛

川や池、堀などの水上や足場の悪い場所を移動するために使われた道具とされています。

忍者の歴史

忍者のはじまり

忍者の歴史は南北朝時代に始まりますが、伊賀忍者が著名になった時期は戦国時代です。伊賀は盆地であるため、大きな勢力が現れず、小さな武士が小競り合いをする地域でした。その中から情報収集や奇襲を得意とする忍者が発生しました。

各地で活躍する忍者

戦国時代、各地の戦国大名が領土をかけて争う中、伊賀忍者は傭兵として全国の戦場を駆け回りました。彼らは地形を活かし、少数の集団で大きな成果を上げたと言われています。

泰平の世の忍者

徳川家康によって江戸幕府が開かれ、泰平の世が訪れた後、伊賀忍者は見張りや要人の護衛役として各地の大名に仕えました。幕末には来航したロシア船に伊賀忍者を派遣し、情報収集させたと言われ、幕府や藩から重用されました。

現代に息づく忍びのころ

正心とは？

忍術を用いて誰にも気づかれずに任務をこなしていた忍者は、「正心」という教えを大切にしていました。正心とは、人としての道を守り、誠実で正直な心を持つことをいいます。忍者はこの教えに従い、忍術を悪用しないようにしていました。この考えは現代の伊賀の教育の中にも息づいています。

上忍とは
音もなく、
臭いもなく、
智名もなく、
勇名もなし、
その功
天地造化の如し

『萬川集海』

日本遺産と 伊賀忍者

忍者の真の姿を知る

平成29年(2017)「忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー」と題したストーリーが日本遺産に認定されました。日本遺産とは、日本の文化や伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、観光振興や地域活性化に活かそうとする制度です。伊賀市内には、ストーリーを構成する文化遺産が数多く存在しており、これらを巡ることで伊賀に潜むリアル忍者の姿を体感することができます。

STORY



JAPAN HERITAGE

日本遺産

忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。忍者の名は広く知ら

れていても、真の姿を知る人は少ない。伊賀・甲賀は忍者の発祥地として知られ、その代表格とされてきた。複雑な地形を利用して数多くの城館を築き、互いに連携し自らの地を治め、地域の平和を守り抜いた集団であり、伊賀・甲賀流忍術は、豊かな宗教文化や多彩な生活の中から育まれた。忍びの里に残る数々の足跡を訪ねれば、リアルな忍者の姿が浮かび上がる。伊賀・甲賀、そこには、戦乱の時代を駆け抜けた忍者の伝統が今も息づいている。

※日本遺産ポータルサイトより抜粋

て ちから 手力神社

火術を得意とした伊賀忍者の一人、藤林氏の氏神社(うじがみしゃ)。毎年例大祭には花火が打ち上げられます。



伊賀流忍者博物館

伊賀にあった実際の忍者屋敷を活用した博物館。忍者資料の展示やからくりの実演、忍者ショーが楽しめます。



忍町

藤堂藩に仕えた伊賀忍者の屋敷が置かれた町。当時の姿を伝える武家屋敷として赤井家住宅が残されています。



春日神社

多くの忍者を輩出した伊賀衆の氏神社。戦国時代の戦火を逃れた拝殿は県の有形文化財(建造物)に指定されています。



霊山山頂遺跡

伊賀忍術の源流の一つとされる修験道の山岳寺院跡。かつて多くの人がここで修行をしていました。

あえ くに

敢国神社

伊賀国一宮。伊賀の上忍の一人、服部氏が「黒党祭(くろんどまつり)」という私祭を主催していたといわれています。

360度
VR





忍者市によるまちづくり

NINJA CITY IGA

忍者市伊賀

私たち伊賀市民は、伊賀市が忍者発祥の地であることを認識し、
忍者の歴史文化や精神を継承するとともに、忍者を活かした
観光誘客やまちづくりを行うことを目指して、ここに「忍者市」を宣言します。

平成29年(2017)2月22日 伊賀市長 岡本 栄

忍者の魅力を発信

平成29年(2017)2月22日(「忍^{ニン}者の日^{ニン}」)忍者の歴史文化や精神を継承し、その認知度を国内外に広め、忍者を活かした観光誘客やまちづくりを進めることを目的に、伊賀市は忍者市宣言を行いました。現在は「忍びの里 伊賀」創生プロジェクトを立ち上げ、忍者トレイルランニングレースを開催するなど、忍者市によるまちづくりとして様々な取組を行っています。また忍者市宣言と同年には三重大学が国際忍者研究センターを開所。忍者に関する研究を行い、その成果を国内外に向けて発信しています。



岡本市長による忍者市宣言



「忍びの里伊賀」 創生プロジェクト

市と県、三重大学、JALが連携して立ち上げたプロジェクト。「忍びの心・技・体」を体験できる様々なプログラムを実施しています。

忍者トレイルランニングレース

舗装されていない山道を駆け抜けるレース。かつて山で修行した忍者の気分を味わうことができます。



伊賀FCくの一



マンホールカード

年賀ハガキ

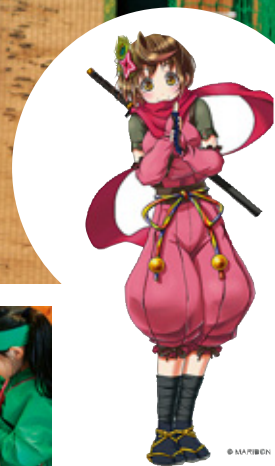


伊賀上野 NINJA フェスタ

伊賀市最大の忍者イベント。期間中は忍者衣装に変身し、手裏剣打ちや吹き矢などの忍者修行が道場で体験できる他、忍者にこだわったイベントが日替わりで開かれます。



忍者修行



NINJAフェスタ実行委員会
公認キャラクター
伊賀風マイ

三重大学国際忍者研究センター

伊賀の地域創生に資することを目的に開所。忍者に関する研究の成果をホームページや市民講座などを通じて発信しています。



開所式



市民公開講座

忍務

「忍者市チャンネル」を 見てみよう!

忍者市の魅力を詰め込んだ動画をYouTubeにて配信中。様々な動画を視聴して忍者市についての理解を深めましょう。



https://www.youtube.com/c/igacity_ninja



芭蕉翁生家

松尾芭蕉が29歳頃まで暮らしていたとされる生家。処女作品集「貝おほひ」は敷地内の釣月軒(ちょうげつけん)で執筆されました。



蓑虫庵

松尾芭蕉の弟子服部土芳(どほう)が開いた蕉風俳諧普及の拠点となった庵。伊賀の芭蕉ゆかりの庵として唯一現存しています。



芭蕉翁記念館

松尾芭蕉の偉業を称えるため昭和34年に開館。芭蕉をはじめ近世の俳諧に関する資料が展示されています。

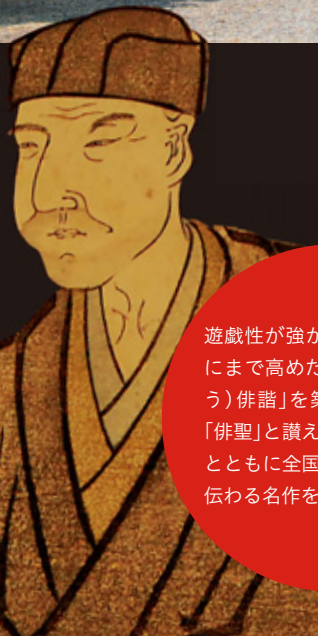
俳聖殿

芭蕉生誕300周年を記念して昭和17年に建立。内部には伊賀焼の芭蕉翁座像が安置されています。



里に刻まれた

松尾芭蕉



遊戯性が強かった俳諧を芸術にまで高めた「蕉風(しょうふう)俳諧」を築き上げた俳人。「俳聖」と讃えられました。弟子とともに全国を見聞し、後世に伝わる名作を多く残しました。

せまぜまな
事おもひ出す
桜哉



芭蕉祭

毎年10月12日、松尾芭蕉の遺徳をしのび行われる行事。全国俳句大会なども併せて開催されます。

忍 市 偉 人 伝

観阿弥 (1333~1384)

南北朝時代に活躍した猿楽師。大和猿楽に曲舞(くせまい)と田楽を加えて能を大成しました。伊賀の服部氏の出身ともいわれています。

横光 利一 (1898~1947)

近代文学に新たな表現を提唱した新感覚派の文豪。彼が小学生の頃過ごした柘植(現・伊賀市野村)は、小説『洋燈(ランプ)』の題材にもなりました。

橋本 策 (1881~1934)

現在の伊賀市御代の生まれ。「ハシモト病」と名付けられた甲状腺腫(こうじょうせんしゅ)を発見した名医。35歳で帰郷し橋本医院院長として慕われました。



松尾芭蕉と藤堂高虎

俳諧の世界に偉大な足跡を残した松尾芭蕉は、伊賀の地で生まれ育ちました。伊賀を治める藤堂藩に仕えた芭蕉は俳諧文化の根付く伊賀で名を馳せた後、全国を巡り、多くの句を詠みました。そうした中で

も芭蕉は故郷である伊賀を忘れることなく、度々帰郷していました。その際には藤堂藩に仕えていた時代を懐かしむなど、誠実で正直な心を表す句を多く残しています。

伊賀上野城
(伊賀文化産業城)

「白鳳城」の異名を持つ美しい城。三層の天守は昭和10年の復興で、復興天守としては数少ない木造建築です。

360度
VR



伊賀の精神



寺町通り

城下町を守るため藤堂高虎によって配置された寺院が並びます。

伊賀の街道

伊賀は都と東国を結ぶ街道が3本通っています。いずれの街道も伊勢神宮への参詣道や物資の輸送路として大いに賑わいました。



伊賀街道



大和街道



初瀬街道

伊賀は秘蔵の国、
上野は要害の地、
根拠とすべし。

藤堂
高虎
たか
とら

戦国時代、数々の戦で功績を上げた武将で築城の名手としても有名。徳川家康から「要害の地」である伊賀を治めるよう命じられ、伊賀上野城を改修し城下町を整備しました。

伊賀上野城の豆知識

日本最大級の西大手門

伊賀上野城と城下町をつなぐ東西大手門の一つ。大阪城の大手門と並ぶ巨大な門でしたが、明治40年に解体されました。



日本有数の高石垣

伊賀上野城本丸西側の高石垣は高さ約30mと日本有数の高さ。藤堂高虎による改修時に石垣構築で名高い穴太衆(あのうしゅう)により築かれました。



人々の想いを のせた 伊賀伝統の祭り

伊賀人が支えた伝統

地域ごとに様々な寺社仏閣がある伊賀市では、そこに住む人々の手によって特色ある伝統行事が多く受け継がれてきました。正月堂修正しゅしやう会や文化振興を重んじた藤堂藩が始めたと言われる大村神社例祭、伊賀に暮らす人々の祈りを込めた勝手神社神事踊など様々な行事が年間を通じて行われます。

数ある祭りの中でも特に規模が大きいのは上野天神宮の秋祭り（上野天神祭）です。江戸時代前期、

藤堂高虎の子高次が復活させて以来、市内9つの町からそれぞれだんじりが出され、特色豊かな鬼たちが練り歩くなど、まち一丸となって支えてきました。平成28年（2016）には「上野天神祭のダンジリ行事」がユネスコ無形文化遺産に登録。今後は世界に認知された伝統行事として、保存継承の推進やその魅力の再発見を行っていきます。



大村神社例祭

地震の守り神として知られる大村神社で秋に行われる祭り。ユニークな大ナマズの花車や3台の神輿が練り歩き、獅子舞を奉納します。

勝手神社神事踊

国指定重要無形民俗文化財

江戸時代中期に始まった豊年祈願の祭りで「カッコ踊り」とも。「カッコ太鼓」を打ち鳴らしながら踊ることで疫病退散や降雨の祈りを捧げます。



上野天神祭のダンジリ行事

ユネスコ無形文化遺産

約400年の歴史を誇る上野天神宮の秋祭り行事。神輿のお供として百数十体の鬼行列と、9基のだんじりが巡行します。



植木神社の祇園祭

県指定無形民俗文化財

宵宮祭と遷幸祭からなる祭りで、神輿とだんじり、祇園花が中心となる華やかな祭りです。勇壮に練り歩く神輿と豪華な楼車の行列はとても見ごたえがあります。



鬼行列



あえ くに 敢国神社の獅子舞

県指定無形民俗文化財

伊賀国で最も社格の高い敢国神社で行われる獅子舞。伊賀各地で行われている獅子神楽の原型とされています。

正月堂修正会

県指定無形民俗文化財

1250年以上前に創建された正月堂の厄除け祭祀。火と水の荒行など古密教の姿を現代に伝えています。



つちか
たくみ

培われてきた 匠のこだわり



伊賀のこだわりを伝授

伊賀焼伝統産業会館では伊賀焼資料の展示や伊賀焼の展示販売、陶芸教室の開催、市内小中学校での陶芸指導など、伊賀焼の普及に向けた幅広い活動を行っています。

360度
VR



伊賀焼伝統産業会館
藤井 尚登 さん

おしえて

古伊賀の魅力とは？



桃山時代に焼かれた古伊賀はどれも個性的。器壁をわざとゆがめ、へうで押して型文様を施し、高温焼成することで美しい緑色のビードロ（ガラス）や、趣ある焦げ・ひび割れが生じるのが魅力です。



おしえて

現代の伊賀焼の特徴とは？

現代の伊賀焼は耐火性の強い土の特性を活かして、土鍋や食器類を中心に焼かれています。美しいビードロの表現など、古伊賀の良さを現代の伊賀焼に取り入れようとする作陶家もいますよ。



伊賀くみひも

職人技を発信

昔から人々が活発に往来し、多くの情報や物資が集まった伊賀では、伊賀焼やくみひもなど特色ある伝統産品が生み出されました。現在は、職人技によって生み出された逸品を継承・発信するための取組を進めています。伊賀焼伝統産業会館は、日本有数の古陶として名高い伊賀焼の技術を継承し、国内外へ発信する拠点です。

また近年では伊賀の優良な商品を「IGAMONO(いがもの)」に認定しブランド化に努めています。



「IGAMONO」を知ろう！

IGAMONO認定品やIGAMONO誕生の物語などが分かる特設サイトをオープン。魅力あふれる伊賀の逸品をその目で確かめてみましょう。



<http://www.igamono.org/>

IGAMONO 認定品

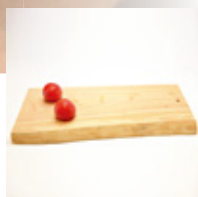
伊賀の風土が育んだ産品や、職人の知恵と技の結晶である商品、それらに携わる人々をIGAMONOとして認定。全国へ発信しています。

IGAMONO の認定基準

「ひそかに育んだ魅力ある伊賀もの」をテーマに、「コンセプト」「独自性」「信頼性」「市場性」「将来性」といった5つの認定基準に基づき、厳しい審査によって選んでいます。



～ライフスタイル～



伊賀産ひのきの「まな板」



ガラスびん容器
SSハート

～加工食品～



養肝漬
二年熟成



木の芽
豆腐田楽

～工芸品～



伊賀焼炊飯土鍋
「かまどさん」



帯締め

～生鮮食品～



伊賀米
コシヒカリ



伊賀牛



背黒餅



かたやき

～酒・飲料～



伊賀の甘ざけ
濃いままタイプ



霧隠才蔵
純米吟醸

他にも様々な認定品があります！